

令和４年度
第２回滝川市地域包括支援センター運営協議会
（書面会議）

次　　　　　第

１．議　　事

- （１）令和４年度第２回滝川市地域包括支援センター運営協議会
報告内容要旨（Ｐ１）
- （２）令和４年４月～９月滝川市地域包括支援センター
活動報告について（Ｐ２～Ｐ８）
- （３）令和３年度高齢者実態調査結果報告について（Ｐ９～Ｐ１０）
- （４）令和４年４月～９月認知症初期集中支援チーム
活動報告について（Ｐ１１～Ｐ１２）

令和４年度 第２回 滝川市地域包括支援センター運営協議会 報告内容要旨

令和４年４月～９月 滝川市地域包括支援センター活動報告について

- ・新型コロナウイルス感染は依然として続いているが、感染対策を講じた上で訪問や教室など、事業を継続して実施しており、全体を通して実績が前年度より増えているものが多い。
- ・生活支援体制整備事業は、令和４年１月、江部乙地区で第２層協議体を立ち上げ、メンバーと協議しながら高齢者向けの集いを企画した。（１０月に開催）
- ・認知症関連事業では、コミュニティ農園畑楽（はたらく）を、６月～１０月まで月１回実施。苗植えから収穫まで体験できた。一部土曜日に開催し、滝川市立高等看護学院の学生や、平日仕事をしている人が畑ボランティアとして参加するなど、多世代が交流する機会となり、認知症ご本人も楽しんで参加している。
- ・生活支援体制整備事業や認知症普及啓発事業について、滝川市公式ホームページの他、LINE を通じた情報発信も行った。

令和３年度 高齢者実態調査結果報告について

- ・別紙資料 ○まとめ 参照

令和４年４月～９月 認知症初期集中支援チーム活動報告について

- ・月１回の会議を開催し、事例検討と対応を行った。
- ・世帯構成は、独居か高齢夫婦世帯であるが、必要時はその他の家族にも連絡を取った上で一緒に対応し、家族支援も行った。
- ・サービス利用につながった場合、継続支援終了としているが、随時担当ケアマネージャーと情報共有しながら後方支援を行った。
- ・継続支援の場合、受診予約、受診同行、服薬確認、認知症状悪化時は入院の調整など、時間と手間がかかるため、延件数が多くなっている。時間をかけて、信頼関係を築き、必要なサービスへつながるよう心がけて対応し、問題解決へつなげている。

令和4年4月～9月滝川市地域包括支援センター活動報告

1. 総合相談支援

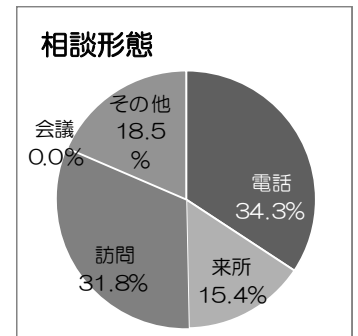
高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を継続できるよう介護サービスにとどまらない、保健医療福祉の機関又は制度の利用につなげる等の総合的な支援を行った。

(1) 相談件数（単位：件）

4年度 前期	944
3年度 前期	869

(2) 相談形態（単位：件）

	電話	来所	訪問	会議	その他	合計
4年度 前期	324	145	300	0	175	944
3年度 前期	295	154	374	1	45	869



(3) 相談者区分（単位：件）

	本人	家族	民生 委員等	地域 団体	医療 機関	警察	実態 把握	その他	合計
4年度 前期	154	171	24	117	53	21	364	40	944
3年度 前期	147	150	25	99	53	15	297	83	869

(4) 相談内容区分（重複あり）（単位：件）

	介護日常 生活相談	医療に関 する相談	権利擁護 相談	実態把握	介護予防 事業	苦情相談	SOS 関連	その他	合計
4年度 前期	559	65	17	361	9	1	1	95	1,108
3年度 前期	469	65	14	297	10	2	3	137	997

(5) 対応内容区分（重複あり）（単位：件）

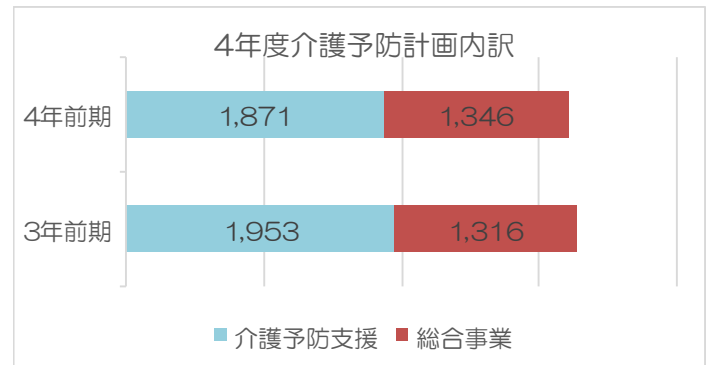
	相談・ 情報提供	ケース 会議	連絡調整	家庭訪問	申請代行	SOS 関連	調査訪問	その他	合計
4年度 前期	741	6	646	319	38	1	218	261	2,230
3年度 前期	627	7	545	326	41	0	261	100	1,907

2. 介護予防ケアマネジメント事業

要支援1・2の認定者、総合事業対象者がより自立した生活を送れるために、適切な介護予防サービス等が提供されるよう、予防サービス計画を作成した。

(1) 担当総件数（単位：件）

	包括	委託	合計
4年度前期	3,223	255	3,478
3年度前期	3,224	317	3,541



(2) 予防計画作成実績（単位：件）

	介護予防支援			総合事業			合計
	包括	委託	計	包括	委託	計	
4年前期	1,724	147	1,871	1,267	79	1,346	3,217
3年前期	1,743	210	1,953	1,239	77	1,316	3,269

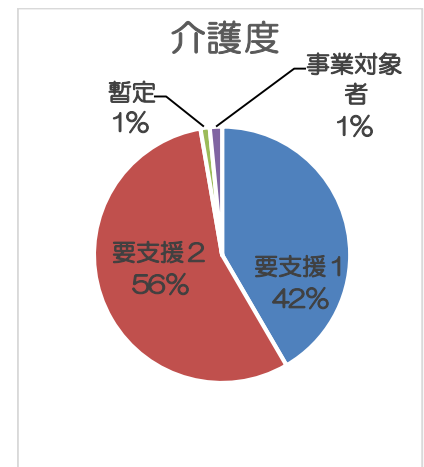
令和4年度指定介護予防支援・介護予防ケアマネジメントに係るケアプラン作成

委託業務事業所（令和4年9月末現在）

- ・有限会社 ケア・コラボレートK・H
- ・医療法人社団 新緑会 文屋内科消化器科医院
- ・医療法人 翔陽会 滝川脳神経外科病院
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉事業団
- ・医療法人 シーザース・メディ・ケア
- ・社会福祉法人 滝川市社会福祉協議会
- ・ひだまり居宅介護支援事業所（江別市）

(3) 介護度（単位：人）

	要支援1	要支援2	暫定	事業対象者	合計
4年度前期	1,447	1,937	40	54	3,478
3年度前期	1,375	2,079	32	55	3,541



(4) 担当者会議開催数（単位：回）

4年度前期	360
3年度前期	352

3. 一般介護予防事業

ますますげんき教室

介護予防チェックリストにより、外出の機会が少なくなり、運動機能などが低下している虚弱高齢者を対象として週1回、血圧測定・健康チェック・百歳体操・ミニ講座（栄養・歯科・転倒防止など）を実施した。感染予防のため茶話会の菓子類提供を中止し、実施時間を45分短縮して実施している。

ますますげんき教室参加者数(単位：回・人・人)

	開催回数	実人数	延人数
4年度前期	38	26	408
3年度前期	20	27	229

4. 包括的・継続的マネジメント事業

地域の介護支援専門員の指導や支援のほか、高齢者が住みやすい地域にするため、関係機関とのネットワークづくりを行った。

(1) ケアマネジャーの相談窓口

相談件数（単位：件）

4年度前期	8
3年度前期	4

困難事例の相談を受け、対応を検討した。

(2) 関係機関ネットワーク会議

在宅・施設・医療等の関係機関に呼びかけ、相談員・介護支援専門員が参加。偶数月の水曜日に定例で情報交換・事例検討を行う他、関係者向け研修会を実施した。すべてオンライン会議で開催した。

《関係機関ネットワーク研修会》

実施日	テーマ・講師	参加者
8月22日	講義 高齢者のウェルビーイングと新型コロナ感染対策の両立 北海道医療大学大学院看護福祉研究科 教授 塚本 容子氏	72人

(3) 地域ケア会議

- ・地域の個別事例を通して、地域課題を見つけ解決へつなげる地域ケア会議個別会議を1回1事例実施。認知症状が進んだ独居高齢者の見守り体制をご家族、地域住民、関係者で共有した。
- ・高齢者の介護状態の改善や悪化防止へ向け、地域の多様な専門職の助言を踏まえ、一人一人の支援方法を検討する自立支援型地域ケア会議を開催し、事業対象者・要支援者に対する個別事例検討を6回12事例行った。
- ・自立支援サポート会議について、会議の意義や概要、自立支援に必要な視点についての学習会を実施した。

《自立支援サポート会議助言者研修会（兼リハ職ネットワーク会議研修会）》

実施日	テーマ・講師	参加者
9月15日	講義・グループワーク 地域ケア会議における助言者の役割と専門職に期待すること 岡山県津山市子ども保健部企画参事(兼)ワクチン接種推進室主幹(兼)環境福祉部高齢介護主幹 作業療法士 安本 勝博氏	50人

(4) 在宅医療・介護連携推進事業

- ・在宅医療と介護の連携に関する地域の課題を抽出し、その対応策を検討することを目的に、市内の医療、介護に関する関係者が集まる推進会議を開催。事例検討を通じて、課題の共通認識を図り、課題解決へ向けての対策に取り組む。

会議は6月に開催し、令和3年度分の口腔栄養アセスメントシート集計結果報告、お口と栄養のサポート訪問の事例報告を行い、意見交換を行った。

(5) 生活支援体制整備事業

- ・高齢者が増加する中、多様な生活支援・介護予防サービスを利用できるような地域づくりをめざす。生活支援コーディネーターが基盤づくりのために、地域住民の集まりに参加し情報収集と支え合いの重要性の説明や活動支援を行う他、他市町村のコーディネーターや活動者との情報交換をオンラインで行った。
- ・認知症地域支援推進員と連携し、啓蒙啓発活動（ホームページ、通信）、チームオレンジコーディネート等を行った。

生活支援コーディネーター活動状況

	地域情報 周知・情報 収集・情報共 有・ニーズ調査	他市町村 連携	庁舎内 連携	地域活動 支援	情報発信	包括ケア (認知症 等)	協議会 関係	合計
4年度 前期	80	5	11	2	13	126	8	245
3年度 前期	41	8	13	0	0	99	11	172

5. 認知症対策関連事業

(1) 認知症予防講座

認知症の基礎知識、こころがまえ、対応などについての認知症ミニ講座を行った。
泉町福祉会館 13人

(2) 物忘れ相談プログラムによる認知症チェック

物忘れ相談プログラムを活用し、物忘れの自己チェックや認知症に関する知識の普及啓発を図る。これまで地域体操教室や町内会・老人クラブ等でも行っていたが、新型コロナウイルス感染症防止策のため、集団場面での実施は中止し、来所と訪問による個別対応で実施した。

物忘れ相談プログラム実施数

令和4年度前期 訪問相談 12人 来所相談 20人
令和3年度前期 訪問相談 5人 来所相談 50人

(3) 認知症カフェの開催

認知症の人やその家族、地域住民、専門職が、気軽に集まり認知症や介護について意見交換できる「認知症カフェ」を市内のグループホーム、ボランティア団体、家族会の協力で開設。

認知症カフェ参加数（単位：回・人）

	ともだち カフェ		カフェ あけぼの		にんかふえ		地域のお茶会 in コスモス		駅カフェ・陽 だまり		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
4年度 前期	休止		10	124	休止		休止		12	421	22	545
3年度 前期	休止		8	147	休止		休止		6	378	14	525

介護事業所主催のカフェは新型コロナウイルス感染拡大に伴い休止中。

(4) 認知症啓発月間活動

認知症の理解と予防についての講演会

9月8日(木) 本町地区コミュニティセンター 参加者 45人
(市民32人、職員9人、NPOソーシャルビジネス推進センター4人)

テーマ：認知症の理解、一次予防・二次予防・三次予防について

講師：小樽商科大学特認名誉教授 相内 俊一 氏

脳トレ体操 鳥井健康運動指導士、認知機能検査(希望者10名)

9月21日の世界アルツハイマーデーに合わせて9月を認知症啓発月間と位置付け普及啓発を行った。

- ・認知症を理解するDVD鑑賞 9月14日参加者 11人
- ・物忘れ度測定 9月5日・14日 参加者 14人
- ・認知症クイズ 9月5日 配布数 123人
- ・認知症展示コーナー ①市役所螺旋階段下 9月1日～16日
②北辰ギャラリー 9月1日～15日
参加者 250人(パンフレット持ち帰り数)

協力

- ・チームオレンジ…箱ティッシュ啓蒙普及紙の包装
- ・滝川市立病院作業療法室…外来患者様が作業の一環として、普及啓発用キーホルダーを作成。

(5) 認知症サポーター養成講座

認知症について、研修を修了したキャラバン・メイトが、認知症についての理解と地域での見守り支援の普及啓発の為、認知症サポーター養成講座を実施。

各種団体の依頼に応じ実施。

今年度前期で2回開催、計20人参加

(6) オレンジ倶楽部

認知症サポーター養成講座を受講した方の中で、継続して情報収集を希望される方を募り「おれんじ通信」を発行し、認知症の知識や認知症に関する活動を紹介した。

「おれんじ通信」の発行(6月)

(7) チームオレンジ

認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座を受講し、活動への参加を希望された方を対象に、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症ご本人やご家族と一緒に考え楽しむ活動を令和3年度から開始。活動には専門職(保健師・社会福祉士など)も参加。

「チームオレンジ便り」の発行(6月)

dementia-U(認知症を理解し、やさしく見守る地域づくり)発行(6月) 滝川商工会議所・江部乙商工会周知依頼

(8) 認知症本人の会「すまいる」

若年認知症の方と高齢者の軽度認知症の方を対象とした、認知症本人の会を開催した。

物忘れが心配な方同士で自らの体験や希望などを話し合い、今後の生活に役立てていく場としている。本人だからこその気づきや意思を共有し本人のやりたいことの実現のため、チームオレンジがパートナーになる。

5月10日 若草作業所カフェすばらうと
内容 本人のやりたいこと(切り絵、くす玉)
参加者9名(本人4人 ボランティア2人、職員3人)

8月9日 若草作業所カフェすばらうと
内容 本人のやりたいこと(ティッシュカバー作り)ヘルプカード作成に向けた意見交換
参加者9名(本人2人 ボランティア4人 職員3人)

(9) コミュニティ農園畑楽^{はたらく}

介護サービスにつながっていない若年性認知症の方と高齢者の軽度認知症の方とご家族を対象とした、コミュニティ農園を実施した。

コミュニティ農園畑楽 実施状況（単位：人）

	本人	家族	ボランティア	高看学生・ 教員	民生委員	職員	計	内容
第1回	5	1	12	7	-	7	32	苗植え
第2回	5	1	12	10	2	7	37	菊芋茶摘み
第3回	4	1	10	-	-	6	21	野菜収穫、草取り
第4回	5	1	15	5	-	6	32	野菜収穫
第5回	6	-	13	5	16	5	45	菊芋掘り、黒豆さ や外し

(10) 空知自動車学校 介護予防情報コーナー

安全運転を継続するために介護予防情報コーナー（各種パンフレット・血圧測定・握力測定など）を月1回開催する。6回実施 計59人参加。

6. その他の事業

(1) 家族介護者の支援

介護者サロン

家庭で認知症等の介護を行う介護者に対し、介護に関する知識の提供及び介護者同士の交流を通し、心身のリフレッシュ・介護者の疲れの軽減・介護者の悩みの軽減を図ることを目的に開催。介護者とは別室で被介護者を預かる託老も行い、介護者が参加しやすい体制づくりに努めている。

介護者サロン実績（単位：人）

	介護者	被介護者	オレンジ 倶楽部	内容
第1回	11	3	8	交流会・グループワーク （日頃の介護の悩み、困っている事）
第2回	10	2	8	回想法について 講師：(有)やすらぎ代表取締役（認知症介護指導者） 高橋芳美
第3回	12	1	10	交流会・グループワーク （日頃の介護の悩み、困っている事）
計	33	6	26	

(2) 成年後見制度の申し立て支援

市長申し立てに関する相談は3件。うち1件は市長申し立てを行った。

(3) SOSネットワークシステム

徘徊による行方不明者をすみやかに捜索・発見するためのネットワークの構築。

現在の登録実人数は114人。うち、今年度前期新規登録者は17人。捜索依頼3件（全て市内）、全件無事発見。

(4) 滝川市はいかい高齢者等位置探索システム助成事業

今年度前期における新規申請なし。

(5) 高齢者虐待の相談支援 3件

いずれも警察からの連絡で現状を確認、関係者と連絡を取り合いながらサービス利用調整や経過観察中。

(6) 出前講座

市民や関係機関の依頼に応じて、高齢者福祉・介護予防等に関する講座を実施。

第1回 7月19日 「介護保険とフレイルについて」

民生委員児童委員連合協議会高齢者福祉部会研修会 13人

第2回 8月19日 「介護支援について」

中地区民生委員児童委員連合協議会定例会 14人

(7) 地域リハビリテーション活動支援事業

作業療法士が中心となり、介護予防の取り組みを総合的に支援するために、訪問・事例検討会等へ出席する他、市内の医療・介護施設等で勤務するリハビリテーション職の研修・交流の推進。

自立支援サポート会議助言者研修会（兼リハ職ネットワーク会議研修会）を実施した。

令和3年度 高齢者実態調査 結果報告

令和3年4月現在での75歳以上総人数 7066 人
 令和3年度調査実施地区の75歳以上総人数 902 人

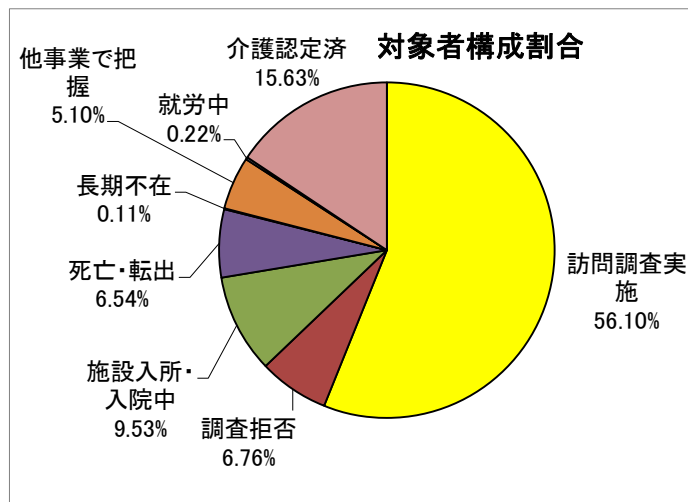
《調査実施地区》

二の坂町、黄金町、扇町

・今年度は世帯構成に関係なく、令和3年4月1日現在満75歳以上の人を対象に訪問調査を実施。
 介護サービス利用や入院・施設入所が明らかな場合は訪問せず。

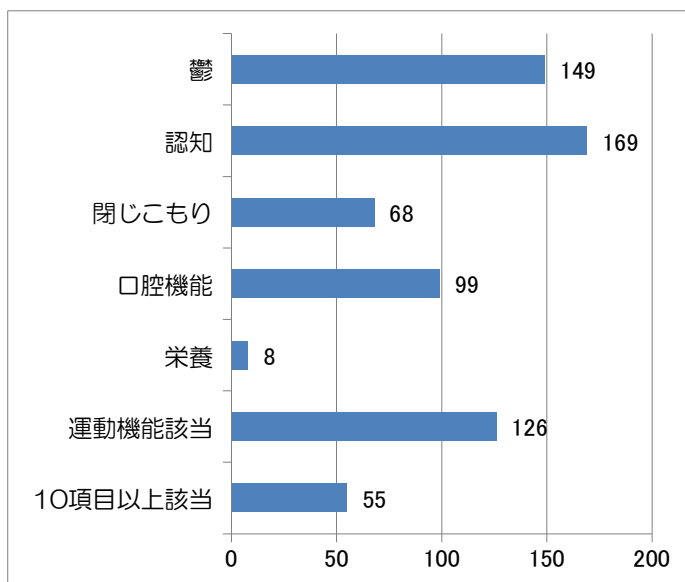
	人数	世帯数	内訳		
			単身世帯	夫婦世帯	その他
総数	902	471	105	142	137
調査対象地区	二の坂、黄金町、扇町				

○対象者構成割合



内訳	人数
訪問調査実施	506
調査拒否	61
施設入所・入院中	86
死亡・転出	59
長期不在	1
他事業で把握	46
就労中	2
介護認定済	141
総計	902

○虚弱高齢者(事業対象者相当の者)内訳 実数 304人 (調査実施者数の60.2%)



内訳(重複あり)	人数
10項目以上該当	55
運動機能該当	126
栄養	8
口腔機能	99
閉じこもり	68
認知	169
鬱	149

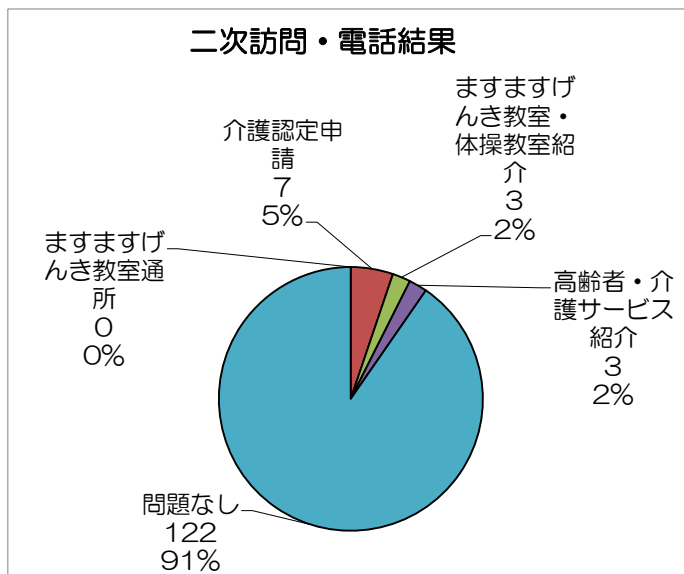
認知機能該当者が高い。

○虚弱高齢者の発見率

	調査実施数(人)	虚弱高齢者(人)	発見割合
実態調査	506	304	60.1%

○二次訪問・電話

虚弱高齢者のうち、介護予防事業(ますますげんき教室・地域体操教室)通所の必要性がある人、介護・高齢者サービスの利用希望者、調査員が気になったケース135人に対し、地域包括支援センター保健師・社会福祉士が訪問・電話かけを実施。



内訳	人数
訪問	22
電話	113
計	135

結果	人数
ますますげんき教室通所	0
介護認定申請	7
ますますげんき教室・体操教室紹介	3
高齢者・介護サービス紹介	3
問題なし	122
計	135

○まとめ

昨年度の調査より、感染予防対策のため事前に封詰めした調査票を対象者宅に投函、ご本人に記入してもらい、後日玄関先で回収する方法で調査している。

自己申告となるため、客観的事実と相違する場合があるものの、回収時の状況も踏まえ、気になる対象者には訪問や電話確認により状況把握を行った。

調査訪問時に地域包括支援センターパンフレットを配布し相談窓口の紹介をしており、パンフレットを通じて後日、家族から相談を受けることもあり、介護認定申請や必要時関係機関の相談につながっている。

今後も、他部署との連携、見守り安心ネットワーク協力団体との協力による緩やかな見守り体制の充実を図りながら、より一層の早期発見・対応と相談窓口の周知を続けていく。

令和4年4月～令和4年9月 認知症初期集中支援チーム活動報告

1. チーム員会議の開催

会議実施数（単位：回・件）

	回数	検討事例数
令和4年度前期	6	6
令和3年度前期	5	5

事例の状況

	年齢	性別	世帯構成	相談者	支援経過
4月	79歳	男性	独居	次女(市内在住)	認知機能低下はあるが、生活能力は概ね維持。次女の見守り協力も得られている。月1回程度訪問し、生活状況の確認と家族支援を継続中。
5月	71歳	男性	独居	相談支援事業所	著明な認知機能低下は認められず。本人は地域住民との交流を持ちたいとの意向があり、地域サロンを紹介。
6月	81歳	女性	夫婦世帯	長女(市外在住)	精神科受診しアルツハイマー型認知症と診断。要介護認定受け、通所介護利用開始。夫も要支援認定がつき、包括ケアマネが担当。
7月	80歳	女性	夫婦世帯	郵便局	精神科受診継続。夫も認知機能低下があり、精神科受診調整中。今後、夫婦とも介護認定申請し、サービス調整を勧めていきたい。
8月	86歳	女性	独居(サ高住)	居宅ケアマネ	介護職員が声掛け継続し、少しずつ抵抗が無くなってきている。随時、居宅担当ケアマネに状況確認する。
9月	87歳	女性	独居	市役所他部署	隣人トラブルは継続。長男とは連絡取れ、協力的。生活能力は維持されているため、包括と家族で見守りを継続。

医療受診について(単位：件)

すでに受診済	0
認知症と診断	1
現在の受診科で経観	5

支援結果(単位：件)

支援終了	3
継続支援	3

継続支援状況

検討後の事例について、家族やケアマネージャー等と連絡調整しながら、訪問・受診同行等の支援を行っている。

実件数 5件、延件数 41件

2. 普及・啓発活動

リーフレットを作成し、介護福祉課の窓口に設置。

地域包括支援センターのパンフレットの中に「認知症の方と家族を支える取り組み」の一つとして掲載。

パンフレットは高齢者実態調査の訪問時に配布。